

いづももの日 笑顔いっぱい

伝統芸能に挑戦 * 陸上競技や相撲

「いづももの日」の5日、備後地方では各地でイベントが開かれ、子どもたちが伝統芸能やスポーツ、昔ながらの遊びなどを楽しんだ。

市立樹徳小1年の西口ひかりちゃん(7)は「能は難しいけれど、楽しかった。また教えてほしい」と話していた。

福山市松浜町のリーデンローズでは、能楽喜多流大島家主催の「お能で遊ぼう！」が開かれ、約40人の幼児や児童が謡や舞の基本を学んだ。昨年に続いて2回目で、能楽師の大島衣恵さん(33)と、能楽講師の文恵さん(30)、紀恵さん(27)の3姉妹らが指導。天女が登場する「羽衣」を紹介する紙芝居を読み聞かせ、謡や太鼓、舞の基本を披露した。

続いて、子どもたちが舞に挑戦し、扇を右手に持ち、すり足でゆっくり歩く動作などを、衣恵さんらの手本を見て繰り返ししていた。同



大島衣恵さん(中央)に舞の基本を教わる子どもたち(福山市松浜町のリーデンローズで)